

2010年12月27日

L A S - E 継続状況の点検結果について

(通 知)

L A S - E 判定委員会

委員長 寺西 俊一

委員 山本 武

委員 杉本 裕明

委員 佐藤 徹

L A S - E 判定委員会において、継続的な取り組みの監査報告を受け、その継続状況を点検・検討した結果、以下の所見を通知します。

1. 運用自治体

秋田県能代市

2. 運用中の類型区分

エコアクション(環境活動)部門 第1ステージ

エコマネジメント(環境経営)部門 第1ステージ

エコガバナンス(環境自治)部門 第1ステージ

3. 点検の対象となる期間

平成22年度(第四期目)

4. 継続状況に関する所見

別紙にて通知いたします。

所見

<全般的な事項>

独自目標および共通実施項目の監査は適切に行われており、能代市の取り組みはL A S - Eに準拠し適正に維持されていると判定します。

<独自の数値目標について>

目標達成状況の資料を見ると、内部評価として「○」「×」が書かれていますが、目標を達成していないという「×」には、努力不足によるもの、改善しているが目標に届かなかったもの、目標設定そのものが非現実的だったものなどに分類されるのではないのでしょうか。評価の記載方法を工夫してみてください。

監査報告書にも書かれているように、一つ一つの原因を分析することによって対策を講じることが必要です。たとえば、軽油を使用する公用車の燃費が悪化している件については、どのような用途の車のどのような原因によるものか、担当部署へ確認したうえで対策を講じてください。

目標達成状況を公表したホームページを見ると、達成状況と監査委員会の所見が掲載されていますが、それに対し市がどのように対応するかが掲載されていません。また、成功例だけでなく失敗例、特にうまくいかなかった事例が役に立つことがありますから、市民・事業者の参考にしてもらうことも考慮しながら発信し、開かれたP D C Aの実施を検討されると良いでしょう。

<推進組織について>

上記のような仕組みを運営していくためには、環境マネジメントシステムの組織上、具体的な取り組み方法・改善策の協議を行う環境マネージャー代表会議の役割が重要です。各部局において能代市の環境政策の担い手を育てるという観点からも、節目節目に協議する場を設け本来の機能を果たすようにしてください。

<今後について>

能代市では市民・事業者・行政が協力・連携して環境施策を進める体制ができしており、エコガバナンス（環境自治）については先進自治体といえます。現在、L A S - E規格の大幅な改訂が検討されており、第2ステージに必要な項目が柔軟に選択できるようになる可能性があります。今後はこうした能代市の長所を活かしつつ、第2ステージへステップアップしていかれることを期待します。